

9月1日は 防災の日

日本は、その位置、地形、地質、気象などの自然的条件により台風、豪雨、洪水のほかがけ崩れや土石流、地すべりなどの災害が発生しやすい国土となっています。国と地方公共団体等をはじめ、広く国民がこうした災害に対して、認識を深め備えを充実強化し、未然防止と被害の軽減を図れるよう9月1日を「防災の日」、この日を含む1週間を「防災週間」に定めています。近年、台風や豪雨などによる甚大な被害が増える中、住民による自助、地域住民と企業等の連携による共助、行政による公助を組み合わせ、対応することが求められています。

ごあいさつ

一般社団法人 斜面防災対策技術協会 東北支部

支部長 奥山 信吾



本日、9月1日は「防災の日」です。今年は、平成28年熊本地震から10年という節目の年にあたります。平成28年4月の熊本地震では、同じ地域でわずか28時間の間に震度7の地震が2度発生しました。そして本年7月28日には、熊本県熊本地方を震源とする地震が発生し、宇城市と氷川町で最大震度7を観測しました。被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。日本は、複数の大きな構造線や数多くの活断層が存在し、急峻な地形、複雑な地質、脆弱な地盤を有することから、地震や豪雨による斜面災害が発生しやすい国です。近年は、線状降水帯による集中豪雨など、これまで以上に激しい雨が各地で発生し、東北地方においても多くの斜面災害が発生しております。

災害は、いつ、どこで発生するか分かりません。だからこそ、過去の災害から学び、その教訓を次の世代へつないでいくことが重要です。当協会は、地すべり・崩壊などの斜面災害から地域の安全・安心を守るため、調査研究、技術の向上、技術者の育成、情報発信などに取り組んでおります。行政、企業、関係団体の皆さまと連携し、現場に根差した技術を磨き、災害を防ぎ、被害を少しでも小さくすることを目指してまいります。

本日を機に、私たち一人一人が防災・減災の責任を改めて認識し、地域の安全・安心を守るため、技術の研さんに努めてまいります。

■会員数：正会員25社、賛助会員16社
■方 針：地すべり対策、がけ崩れ対策、雪崩対策技術の向上および斜面防災事業の健全な発展を図り、もって斜面防災対策事業の普及と促進に協力し、国土の保全と民生の安定に貢献する。
■H P: <https://www.jasdim.or.jp> (本部)
■T E L: 022-257-1657
■所在地：〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-1-8 (パルシティ仙台1階)

安全・安心な国土発展に寄与する3団体

一般社団法人 東北地質調査業協会

理事長 奥山 清春



近年は日本を取り巻く環境が大きく変化しているうえに、地球温暖化の進行に伴い異常気象に起因する災害が全国各地で頻発しております。東北地方においても例外ではなく、本年は、梅雨前線の長期停滞と台風の接近が重なり、広範囲で強い雨が続きました。河川の水位上昇に伴う氾濫や道路の損壊、土砂崩落や斜面災害の危険度が高まるなど、地域の脆弱性が改めて浮き彫りとなりました。

さらに、地震活動も活発化しています。4月の三陸沖地震では震度5強、6月の岩手県沖地震では震度6強を観測し、太平洋沖のプレート境界の活動が続いていることが明らかになりました。政府が警戒を強める日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震のリスクは、平常時より高くなっていると指摘されており、地域住民の不安は高まっています。さらに7月28日には熊本地域で震度7を観測する地震が10年振りに発生しております。このような状況下、時代に合わせた発注者との災害協定の見直しや関係機関との綿密な連携を一層進め、災害に備えた協会活動を実施してまいります。

多様な自然災害と隣り合わせの状況において、防災・減災の基盤となるのが、災害危険箇所の的確な調査と地域の災害リスクの正確な把握です。地域の地盤特性や地質構造を熟知した私たち東北地質調査業協会の会員企業、そして地質技術者が、皆さまの安全・安心な地域づくりに貢献してまいります。

■会員数：正会員50社、準会員1社、賛助会員9社
■方 針：地質、土質、地盤、地下水などの、地中を対象とした技術情報を提供し、優れた専門技術をもって安全・安心な社会づくりに貢献するとともに、地質調査業の社会的な評価の向上に努める。
■H P: <https://tohoku-geo.ne.jp>
■T E L: 022-299-9470
■所在地：〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-1-8 (パルシティ仙台1階)

一般社団法人 全国さく井協会 東北支部

支部長 坂本 興平



当協会は地下水を掘り当て、その水を地域へ提供する「井戸」をつくることで社会に貢献してまいりました。東日本大震災から15年が経過した現在も、東北地方では地震や豪雨による自然災害が毎年のように発生しています。本年も春先の福島県沖地震や梅雨期の線状降水帯による豪雨、8月中旬には千葉県で記録的な大雨により各地で土砂災害や河川氾濫、道路・宅地の冠水が相次ぎ、断水被害も発生しました。さらに7月28日の熊本地震では宇城市と氷川町で最大震度7を観測し、建物被害に加えて道路・交通施設等のインフラ被害の発生、また広い範囲で断水が生じて地域生活に大きな影響を及ぼしました。

大規模災害時には、井戸水が生活用水の確保に重要な役割を果たします。能登半島地震でも多くの地域で井戸が応急給水に活用され、改めて地下水資源の有効性が認識されました。当協会では、防災井戸の整備や維持管理の支援に加え、温泉井、地中熱利用井戸、さらには温暖化対策として注目される二酸化炭素地層貯留井など、多様なさく井技術を通じて地域の安全・安心な暮らしを支える取り組みを進めています。

今後も、災害に強い地域づくりに向け、地下水の専門技術を有する会員企業とともに、持続可能な水資源の確保と防災力向上に貢献してまいります。

■会員数：正会員23社、賛助会員8社
■方 針：さく井技術の向上ならびに技術の伝承を図るとともに、地下水の保全・開発についての調査・研究等を行い、もって国土の環境保全に努め、社会の健全な発展に寄与し、さく井業の健全な発展を図る。
■H P: <https://sakusei-tohoku.jp>
■T E L: 022-257-1614
■所在地：〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-1-8 (パルシティ仙台1階)



We Conserve nature for the future

豊かな大地を未来へ

建設コンサルタント

奥山ボーリング株式会社

代表取締役会長 奥山和彦 代表取締役社長 奥山信吾

本社/秋田県横手市神明町10番39号 TEL.0182-32-3475

<https://okuyama.co.jp>

支店・営業所/青森・福島・秋田・盛岡・山形・仙台・北秋田・大館・北陸・東京

安全な水と地盤を
東北に・・・



東北ボーリング

検索



Earth & Water
TOHOKU BORING CO., LTD.

東北ボーリング株式会社

URL:<http://www.tbtor.co.jp>



株式会社 **新東京ジオ・システム**

代表取締役 奥山 清春

(本 社) 〒994-0011 天童市北久野本三丁目7番19号
TEL.023(653)7711(代) FAX.023(653)4237(代)

感動がしごとです。

水・温泉・土のコンサルタント



大泉開発株式会社

本社 〒038-0024 青森県青森市浪館前田四丁目10番25号
TEL.017(781)6111 FAX.017(781)6070

土と水と緑の技術で社会に貢献します。
国土防災技術株式会社

東北支社

執行役員支社長 川端 秀樹



〒984-0075 仙台市若林区清水小路6-1
(東日本不動産仙台ファーストビル1F)
TEL.022(216)2586 FAX.022(216)8586
URL=<https://www.ice.co.jp/>



平野組

<https://www.hiranogumi.co.jp/>

【環境アセスメント/土と基礎/水と温泉】
【測量・設計/地すべり対策調査・工事】
建設コンサルタント



株式会社 **自然科学調査事務所**

取締役会長 鈴木 建一

代表取締役 嵯峨 智広

秋田県大仙市戸崎字谷地添102-1
TEL.0187(63)3424 FAX.0187(63)6601

Sincerely, Speedy, and best Solution.

独自技術で未来を育むベストソリューションを提供します。

総合建設コンサルタント



川崎地質株式会社

執行役員北日本支社長 菅野 孝美

北日本支社 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡三丁目4番16号
TEL.022(792)6330 FAX.022(792)6331

水と地盤のプロ集団
旭ボーリング株式会社
代表取締役 高橋 和幸
本社/〒024-0056 岩手県北上市鬼柳町都鳥186-1
TEL 0197-67-3121 FAX 0197-67-3143
旭水 検索

激甚化する自然災害から
私たちの地域を守ります